

牛マイコプラズマ乳房炎を防ぐためのポイント

概要 Abstract

マイコプラズマは細菌とウイルスの中間の大きさをもつ微生物です。牛では *Mycoplasma bovis* をはじめとする約10菌種が肺炎、関節炎、生殖器炎症、**乳房炎**などをひきおこすとされています。

近年、大規模酪農場を中心に**マイコプラズマ乳房炎**が増加しています。本症は症状が重篤で感染力が強く治り難いことから、農場内に侵入すると甚大な被害を招く恐れがあります。

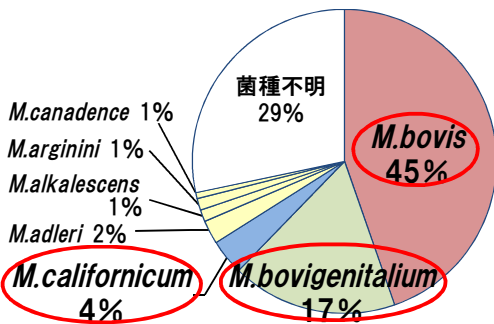
そこで、乳汁中マイコプラズマの**感染実態**と酪農場における**主な感染源**を明らかにし、これらの結果をもとに、**牛マイコプラズマ乳房炎の予防とまん延のためのポイント**を示しました。



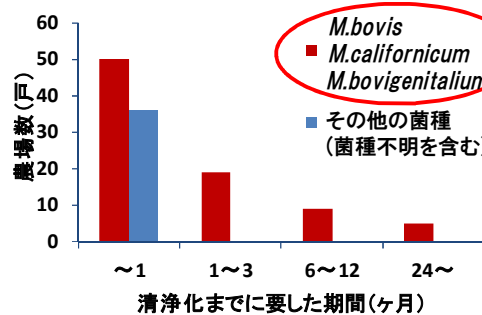
マイコプラズマのコロニー

成果 Results

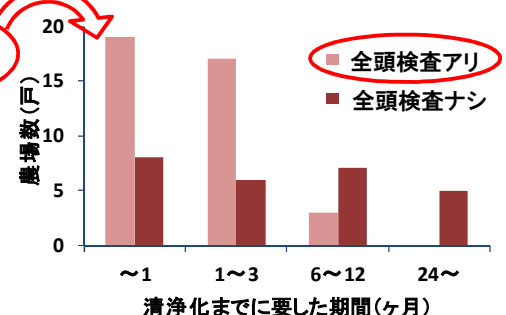
★乳房炎起因菌として *M. bovis*、*M. californicum*、*M. bovis genitalium* の3菌種が重要です。全頭検査で感染牛を特定し、対策することで清浄化に要する期間を短縮できます。



菌種別の陽性農場の割合



検出菌種および全頭検査の有無と清浄化までに要した期間



清浄化までに要した期間

★*M. bovis* による肺炎子牛や *M. bovis genitalium* に感染した分娩牛の悪露は乳房炎の主な感染源であり、これらの牛からの伝播を防止する飼養衛生管理が重要です。

M. bovis による肺炎子牛の鼻汁

M. bovis genitalium に感染した分娩牛の悪露



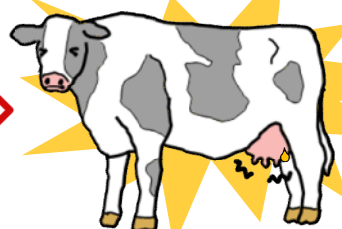
M. bovis の遺伝子型
子牛鼻汁
子牛環境
乳汁

一致!

環境中にマイコプラズマを排菌

M. bovis genitalium の遺伝子型
悪露
乳汁
分娩環境
乳汁

一致!



乳房炎発生!

牛マイコプラズマ乳房炎の予防およびまん延防止のためのポイント

- 1 肺炎発生時の感染予防
- 2 分娩牛の牛床管理
- 3 定期的なバルク乳検査の実施
- 4 菌種同定の実施
- 5 搾乳衛生対策の徹底

普及 Dissemination

- 飼養衛生管理の改善により、マイコプラズマが搾乳牛群内にまん延するのを防止する際に活用します。
- 乳汁からマイコプラズマ検出された際の対応の参考となります。

連絡先 Contact

畜産試験場
基盤研究部 家畜衛生グループ
0156-64-0615
animal-agri@hro.or.jp